

川崎市内の急性呼吸器感染症 病原体検出状況

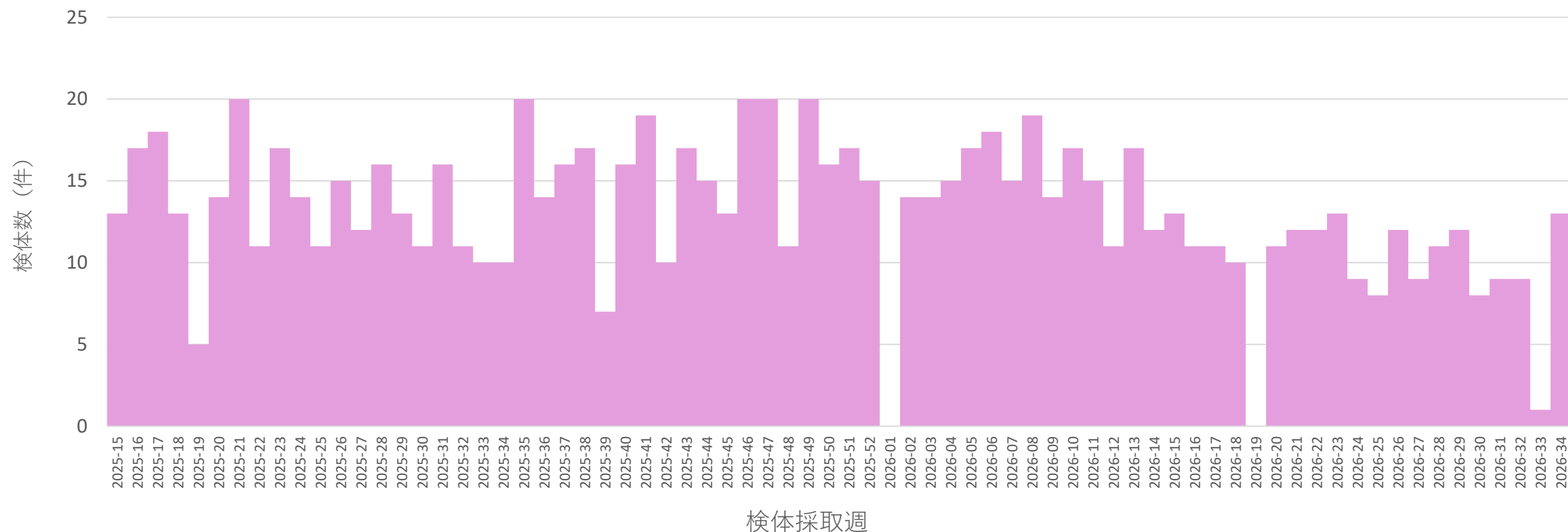
2025年(令和7年) 第15週 ～ 2026年(令和8年) 第34週

川崎市健康安全研究所

検体搬入の状況（2025年第15週～2026年第34週）

n=942

検体採取週別検体数

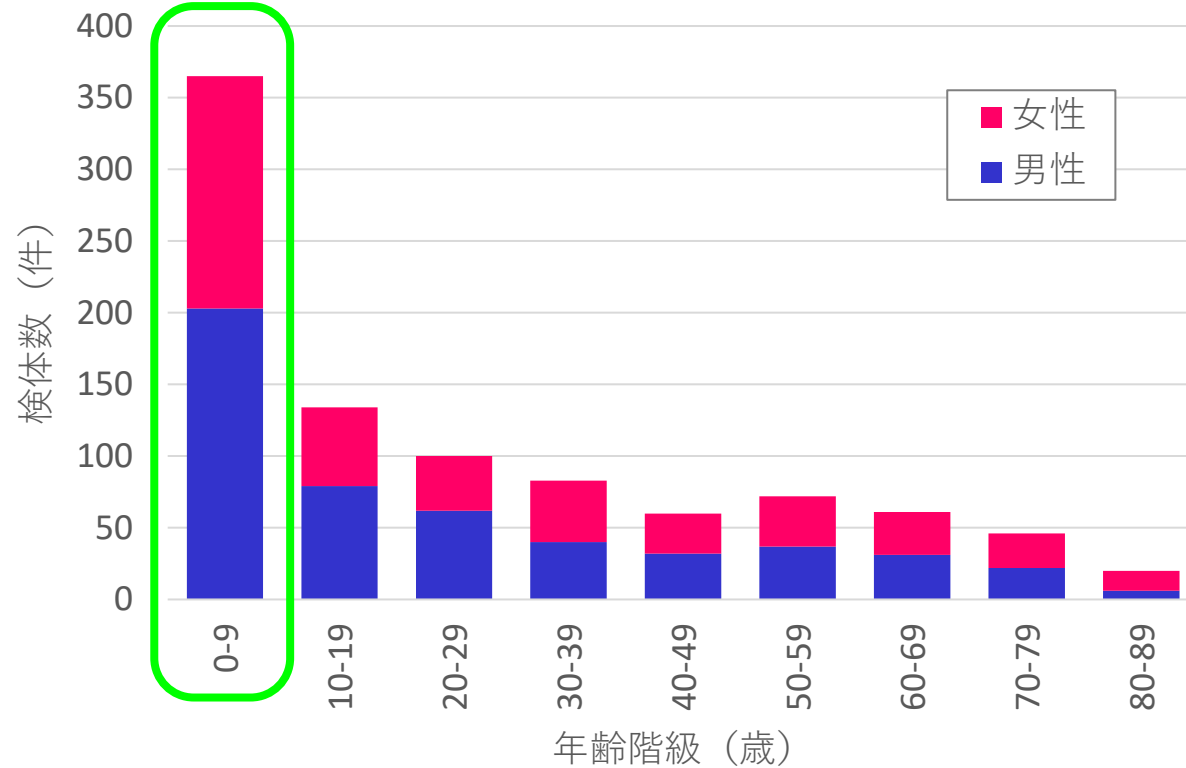


平均13件／週
1医療機関あたり平均0.9件／週

医療機関で患者検体を採取した疫学週を検体採取週としています。
疫学週とは感染症発生動向調査の報告週の単位で、1月の初めを第1週とし、12月まで
続けて使います。つまり、7月の初旬は第27週となり、12月末が第52週となります。

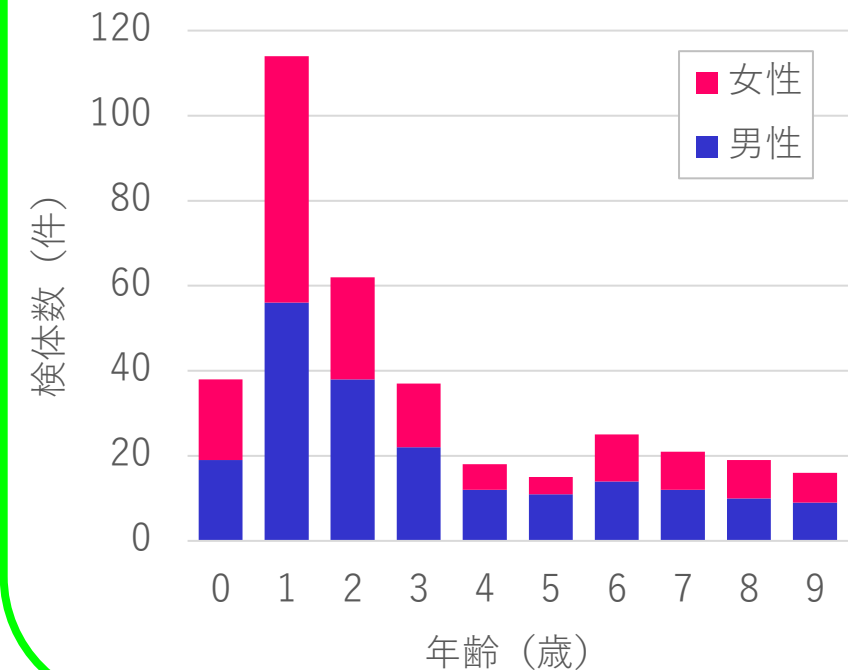
検体の属性（2025年第15週～2026年第34週）

年齢階級別検体数 n=941



年齢中央値：17歳（0歳1か月～89歳）※年齢性別不明が1件
0～9歳が約39%を占めた

10歳未満の年齢別検体数 n=365

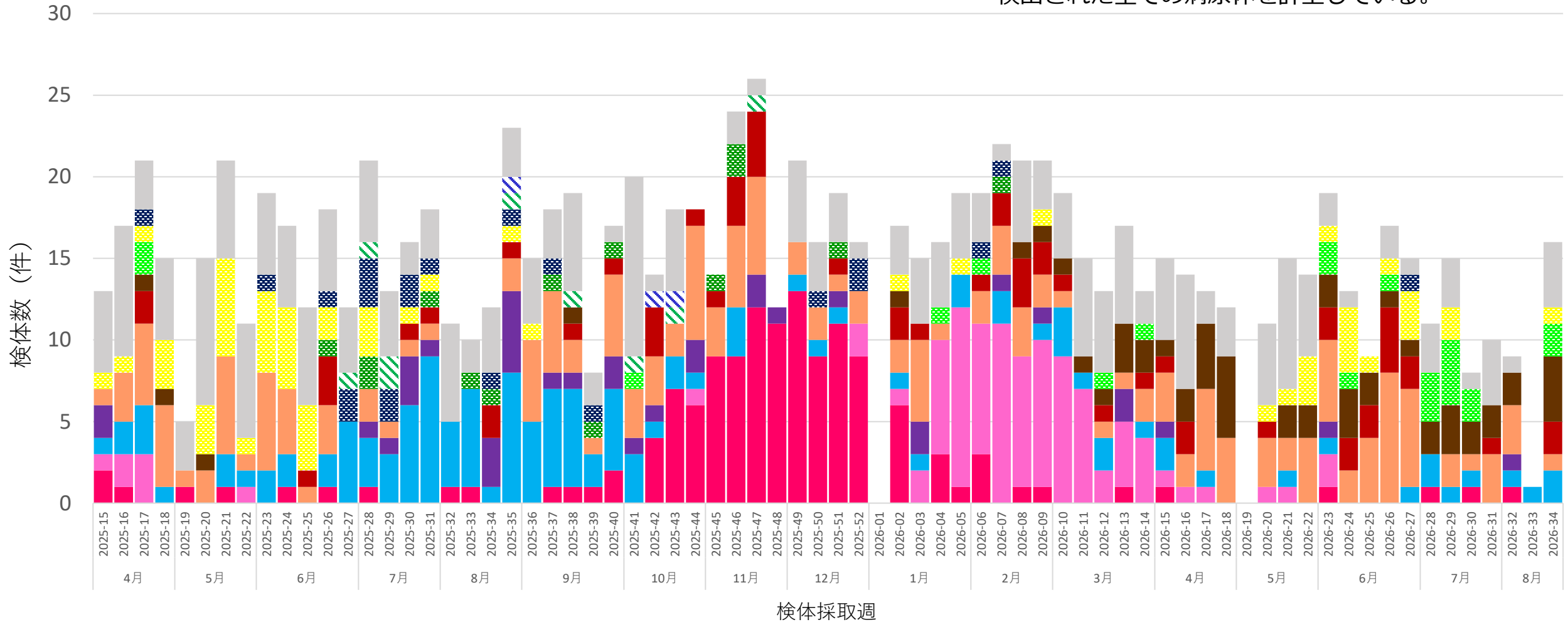


1歳が最多（114件）

検体採取週別の病原体検出数（2025年第15週～2026年第34週）

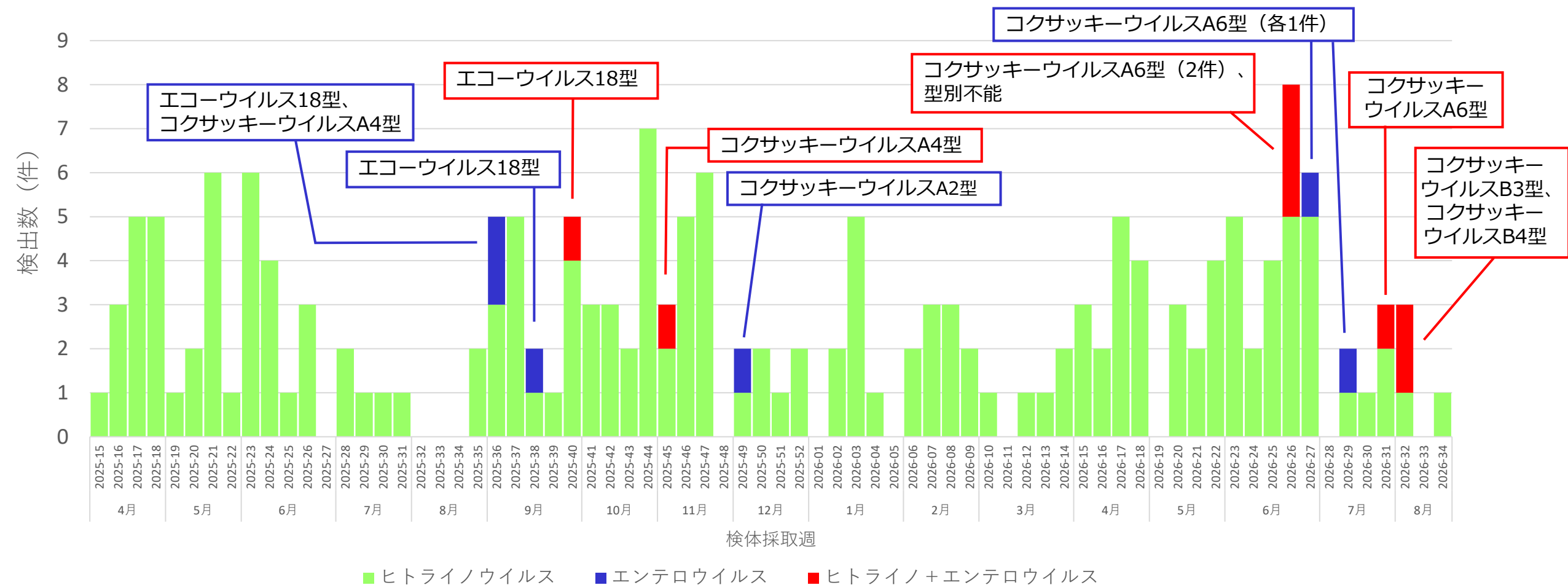
n=942

※1つの検体から複数の病原体が検出された場合は
検出された全ての病原体を計上している。



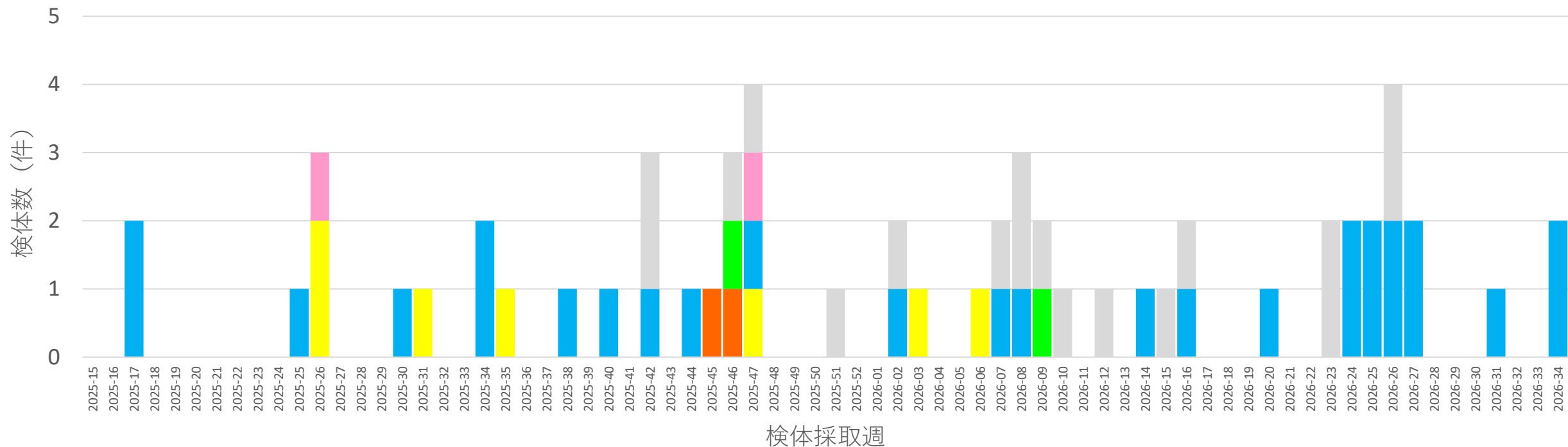
- A型インフルエンザウイルス
- B型インフルエンザウイルス
- 新型コロナウイルス
- RSウイルス
- ヒトライノ／エンテロウイルス
- ヒトアデノウイルス
- ヒトメタニューモウイルス
- パラインフルエンザウイルス1型
- パラインフルエンザウイルス2型
- パラインフルエンザウイルス3型
- パラインフルエンザウイルス4型
- 百日咳類縁菌
- 肺炎マイコプラズマ
- 陰性

ヒトライノ／エンテロウイルス 種別・型別検査の結果 (2025年第15週～2026年第34週) n=180



ヒトライノウイルスが大多数 (92%) を占めた。

ヒトアデノウイルス 型別検査の結果 (2025年第15週～2026年第34週) n=59



■ 1型 ■ 2型 ■ 3型 ■ 5型 ■ 54型 ■ 型別不能

※2型は2型亜型（89型、108型）を含む。3型は3型亜型（114型）を含む。

2型が多く、47%を占めた。

まとめ

- 2025年第15週～2026年第34週には、**942件**の検体搬入があった。
- 10歳未満の検体が約39%を占め、**1歳の検体数が最多**であった。
- 期間中、ヒトライノ／エンテロウイルスが最も多く検出され、次いでA型インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、B型インフルエンザウイルスの順であった。ヒトライノ／エンテロウイルスはほぼ通年にわたり検出がみられたのに対し、A型インフルエンザウイルス、B型インフルエンザウイルス及び新型コロナウイルスではそれぞれ一峰性の大きなピークを示した。
- ヒトメタニューモウイルスは、2025年と比較して2026年に検出数が増加した。
- ヒトライノ／エンテロウイルスの種別・型別検査の結果、**92%**がヒトライノウイルスであった。
- ヒトアデノウイルスの型別検査の結果、**2型が最多で47%**を占めた。